

27年度版教科書つれづれ 15 「だれが、たべたのでしょうか」(教育出版・小学1年)の巻

加藤 郁夫 (読み研事務局長)

「だれが、たべたのでしょうか」は教育出版・小学校1年(上)の説明文である。この教材も前から教科書に収録されている。23年度版(以下旧版)と27年度版(以下新版)では、変わったところがある。そこから入門期の説明文指導のあり方について考えてみたい。

説明文の入門期においては、各社とも「問い—答え」の構成になった文章を配置している。光村図書では「くちばし」、東京書籍では「どうやってみをまもるのかな」そして教育出版ではこの「だれが、たべたのでしょうか」とその前にある「すずめのくらし」(これは新教材である)。いずれの教材も写真や絵と文章が一体となったもので、問いが提示され、ページを捲ると答えが書かれているというレイアウトをとっている。

「問い—答え」の関係を読み取ることが、説明的文章の入門期において重要なことを示している。それとともに、問いと答えのまとまりがいくつあるか(言い換えれば、話題のまとまりがいくつあるか)、それぞれのまとまりがどこからどこまでか、というまとまりの読み分けも大事なポイントといえる。

「だれが、たべたのでしょうか」は、旧版・新版ともに「くるみを食べるねずみ」「まつぼっくりを食べるりす」「木のはを食べるむささび」の三つのまとまりから構成されている。このようなまとまりを読みとることで、これらのまとまりのどこにも入らない文があることが見えてくる。一番最後に置かれている文である。

山や もりでは、いろいろな どうぶつの たべた あとが みつかります。

それまでが、「ねずみ」「りす」「むささび」と述べてきたのに対して、「いろいろな どうぶつ」とあることで、まとめている文であることが分かる。

つまり、三つのまとまりが読みとれることで、そこに入らない文を見つけることができ、その文が全体をまとめる文になっていることが分かるのである。

旧版ではこの箇所が次のように2文になっていた。

山や もりでは、いろいろな たべあとが みつかります。

たべあとを よく みると、どんな どうぶつが くらして いるかが わかります。

新版は、先に示したように1文になっている。この変更を、私は評価する。それは以下の理由による。

「たべあとを よく みると、どんな どうぶつが くらして いるかが わかります。」という後者の文は、この文章全体のまとめとしては、ふさわしくないからである。「たべあとを よくみると～」という言い方は、食べ跡を探して、どんな動物が暮らしているのか、考えてみようといったことを示唆しているようにも受け取れる。しかし、食べ跡を見て、そこからどんな動物なのかということは、専門家であればわかるであろうが、一般の私たちにはそう簡単にわかることではない。ましてや小学校1年生である。そのような思わせぶりの文を削除して、「山や もりでは、いろいろな たべあとが みつかります。」だけの方がまとめとしてはシンプルであり、本文の内容とも対応していて、わかりやすいといえる。

ただ、あえて言えば、新版の1文のまとめすらも、私は必要ないと思う。小学1年生の入門期では、問いと答えの関係をきちんと読み取ることとまとまりで捉えられることができればよい。まとめの文、言い換えれば「はじめ—なか—おわり」の「おわり」に相当する箇所があることは、この段階で教えずともよいと考える。教科書の文章では「まとめ」の文を載せたがる傾向があるのだが、なんでも、「まとめ」をのせればよいというわけではない。

小学1年生の前半の段階では、「はじめ—なか—おわり」の三部構成の説明文はどの会社の説明文を見ても登場していない。裏返せば、「はじめ—なか—おわり」を教えるには、まだ早いのである。そのような時期に、「なか—おわり」の変則な構成をわざわざ教える積極的な意味はないと考える。前述したように、この教材では「問い—答え」の関係の読み取りと話題の違いでまとまりを読み取ることができればよい。「はじめ—なか—おわり」の三部構成については、一年生の後半もしくは二年生でよいと考える。

もう一つ、大きな変更点がある。それは文の数である。「くるみを食べるねずみ」「まつぼっくりを食べるりす」「木のはを食べるむささび」の三つのまとまりでの文の数を示すと以下のようになる。+の前が問いの文がある前半、+の後が答えになる後半部である。

「くるみを食べるねずみ」 旧版 2文+2文 新版 3文+2文

「まつぼっくりを食べるりす」旧版 2文+2文 新版 3文+2文

「木のはを食べるむささび」 旧版 2文+3文 新版 2文+3文

「木のはを食べるむささび」のところは、ほとんど変わっていないのだが、「くるみを食べるねずみ」「まつぼっくりを食べるりす」で、一文ずつ増えているのである。どのように変わっているかを見てみよう。

「くるみを食べるねずみ」のところでは、旧版では最初の見開き2ページに写真といっしょに次のように書かれている。

あなの あいた くるみの からが おちて います。
だれが、くるみを たべたのでしょうか。

新版は、同じく見開き2ページに写真といっしょに次のように書かれている。

くるみの からが おちて います。
あなの あいた ものも あります。
だれが、くるみを たべたのでしょうか。

問いの文は同じだから、その前が1文から2文になったのである。

「まつぼっくりを食べるりす」では、旧版は以下のものであった。

しんだけに なった まつぼっくりが、おちて います。
だれが、まつぼっくりを たべたのでしょうか。

新版は、以下のようになっている。

まつぼっくりが、おちて います。
まわりだけが、かじられた ものも あります。
だれが、まつぼっくりを たべたのでしょうか。

ここも、問いの文は同じだから、その前が1文から2文になったのである。

このように見てくると、変更のポイントが見えてくる。最初の文は、くるみなり、まつぼっくり

の提示。二番目の文であなやかじられたあとを指摘している。旧版では、それを1文で述べていたのだが、新版は2文に分けて示している。

そして「まつぼっくりを食べるりす」では、「しんだけに なった」とはじめていたのが、新版では「しん」という言葉を使わず「まわりだけが、かじられた」としている。「しん」という言葉をいきなり使うのは1年生には難しいと考えたのではないだろうか。新版の方が、わかりやすい表現になっているといえる。

それは答えの部分を見てもはっきりする。旧版は、次のようであった。

りすが、まつぼっくりを たべたのです。

りすは、しんを のこして たねだけを たべます。

新版は、こう変わっている。

りすが、まつぼっくりを たべたのです。

りすは、まつぼっくりの まわりだけを たべて、しんを のこします。

旧版の言い方よりも、新版の言い方が、1年生にとってはわかりやすい。まつぼっくりは知っていても、どこに種があるのかは、1年生ではイメージしにくいだろう。「まわりだけを たべて」の方が、写真と合わせてみても、理解しやすい。

「木のはを食べるむささび」のところが、旧版との異同が一番少ないのであるが、その違いをみると、ここでもわかりやすくなっていることがはっきりと分かる。新版の答えの部分を見よう。

むささびが、木のはを たべたのです。

むささびは、木のはを かみきって たべます。

はの まんなかだけを たべる ことも あります。

旧版では、真ん中の文が次のようになっていた。

むささびは、木のはの はんぶんを かみきって たべます。

「はんぶん」という言葉が入っていたのである。大した違いではないように見える。しかし、考えてみると、なぜむささびは「はんぶん」食べるのだろうか？そんな疑問が浮かんでくる。しかし、そのような疑問が出ても、この文章では解決できない。また、小学1年生のこの段階で、そこまで深く考えさせる必要はないだろう。その意味では、わざわざ疑問が浮かんでくる書き方をする必要はない。ここでは、むささびが木の葉を食べること、それも少し変わった食べ方をするくらいがわかればよいと考え、「はんぶん」がカットされたのではないだろうか。

この教材では、問いの文を含む前半と答えの文に当たる後半とにそれぞれのまとまりが分かれることはすでに述べた。この段階では、問いと答えをきちんと意識することを子どもたちに教えていくべきだと考えている。実践的には、問いは赤鉛筆で枠囲みし、答えは青鉛筆で枠囲みするといったように、問いと答えに子どもたちの目が向くような指導が重要である。

新版のレイアウトで一つ注文を付けたいのは、最初の2ページ見開きの箇所である。

くるみの からが おちて います。

あなの あいた ものも あります。

だれが、くるみを たべたのでしょうか。

はじめの2文があって、三番目の文の問いが出される。その意味で、この3文はひとまとまりでとらえる必要がある。ところが教科書のレイアウトは落ちているくるみの大きな写真をはさんで、

前に 2 文が置かれ、後に問いの文だけが置かれている。なぜこのように分ける必要があったのか。問いの文を目立たせたかったのであろうか。子どもたちが、この 3 文を捉えやすいレイアウトに配慮すべきである。現にその後の、まつぼっくりと木のはでは、文をまとめてレイアウトしている。旧版では、3 つある問いの文だけをすべて、写真を挟んで後に配置し、問いの文だけを「独立」させていた。それだけに、全体として文章がブチブチと切れた印象が強かった。新版は写真を挟んで文章を切ることをせず写真を上に配置したり、ページの左側に配置したりして、文章をまとめて表示するようにしている。それだけに、最初の 2 ページのところだけ、問いの文を切り離れたレイアウトは他との違和感を持たせてしまう。